

「おばあちゃんありがとう」

千葉県千葉市立星久喜小学校二年 加藤 愛理

「二人ともごうちにおいで。」おばあちゃんのおふこえがきこえた。きょうはおぼんがちかいのでみんなでおはかそうじです。お姉ちゃんといそいでこえのするほうへ行くとおばあちゃんがあせをふきながら「これがぼうくうごうのあとだよ。」とおしえてくれました。入口はせまそうだけど中のほうはトンネルのようになっていてうすぐらく、虫のすみかみたいでたのしそうなどころには思えませんでした。おばあちゃんはおくしゅうけいぼうがなるとほうくうずきんをかぶり、妹の手をひいてこのあなの中にかくれたそうです。あそんでいたおだまやぬいかけのふく、ふかしいも、大きな本をぬのせいのリュックにつめてなきながらぼうくうごうまで走ったそうです。わたしはたくさんせんそう中の生かつをしつもんしてみたくまりました。「この木はね、むかしからカブトムシがたくさんとれるんだよ。」といいながらわたしのあせをふいてくれました。そのこかげでたくさんのせんそうのたいけんを話してくれました。おこめがなくてメリケンコというこなでつくったすいとんをたべていたこと、ようふくは、うわぎがセーラーふく下は、もんべというズボンをはいていたりして学校はお休みでまい日家のでつたいをしていたそうです。おばあちゃんは家のようじでお母さんと二人でしんせきの家に行くことになったあるあさ、いとこたちにもあえると思いよろこんであるいていた時「ウーウーウー」とサイレンがなってとおくからひこぎのエンジンの音がきこえてきたそうです。「はやくちかくのぼうくうごうにひなんしなくちゃ。」とお母さんがつぶやくように言っておばあちゃんの手をひいてやつとおお田山のぼうくうごうについた時「いまはいつてきたらてきにみられてばくだんをおとされてしまうから入るな。」とぼうくうごうの中からどなられたそうです。その話をきいた時わたしはむねがドキドキしました。このままだとおばあちゃんたちがしんでしまうと思ったからです。「おねがいたすけて二人をぼうくうごうの中に入れてあげて。」と、なきたくなりました。おばあちゃんのお母さんは、「おねがいです子どもだけでもぼうくうごうの中に。」とむちゅうでさけんだそうです。わたしはいのちをまもることをまい日どんな時でもかんがえなくてははいけないせんそうをたいけんしたおばあちゃんが、今わたしの目の前にいることがとてもうれしくて、うれしくて、いのちはとてもだじだと思えました。おばあちゃんからのちをバトンタッチされたようで、いままでやさしくほほえんでだきしめてくれるあたたかい手をしたおばあちゃん、せんそうをたいけんしたつよいおばあちゃんこれからもよろしくおねがいます。いきぬいてくれて「どうもありがとう。」心そこからそう思いました。